

第4次総合計画 重点課題達成状況 (令和5年度)

達成率及び事業の進捗状況を評価

○達成率

令和7年度（第4次総合計画 基本計画最終年度）に達成すべき目標（K G I：重要目標成果指標）
に対しての達成率

○事業進捗評価

達成率に関わらず、目標達成までの事業の進捗（実施）状況を下記のA～Eの5段階で
評価。

- 〔A〕・・・計画以上に進捗し、優れた成果等を得た
- 〔B〕・・・計画以上に進んでいる
- 〔C〕・・・計画どおりに進んでいる（計画どおりに実施している）
- 〔D〕・・・計画より遅れている（計画どおりに実施していない）
- 〔E〕・・・未着手、未実施、先送りなど

※なおK G Iによっては複数の基本目標に該当する項目もあるが、第4次総合計画冊子
（P 4 6～7 0）においての分類と同様にしている。

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
---------	------------------

KG I 1	交通環境の充実
指標の説明	共助交通団体（地域）の育成・支援
指標の考え方	JR、路線バスともに利用者が減少しており、特に路線バスは利用者の減少に伴う収益の悪化などにより、バス路線の維持が難しくなっている状態です。子どもや高齢者など車の運転ができない人にとって公共交通は大切な移動手段であり、それらの利用促進に向けた取組を行っていくと同時に、地域の人を中心とした共助交通を新たな交通体系として支援します。

指 標 名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
移動手段に関する困りごとがある地域への共助交通導入の育成・支援〔団体数〕	46	まちづくり企画課	0	1	1				3	66.7%

目標に対する事業進捗評価	本年度（令和3年度）に集落等が共助交通に取り組む際に使用する車両に係る自動車任意保険料の補助制度を新設し、町報への掲載等を行い、周知を図った。制度の活用について、5地区から相談を受けたが、令和3年度中の活用には至らなかった。
	令和3年度から相談を受けていた1地区で、令和4年度から共助交通を開始した。
	前年度に引き続き、年間を通して原区にて実施。新規の相談等はなかった。
今後の取り組み	原区が令和4年度から取り組む予定である。また相談を受けた区への助言等を丁寧に行い、制度の活用につなげていきたい。
	原区を起点に、他の地域への浸透を図りたい。
	原区における事業の継続のために必要とする支援と、共助交通の制度の周知を図る。

主管課 評 価
C

KG I 2	社会資本の改良と長寿命化
指標の説明	（1）管路更新率の向上
指標の考え方	水道施設（送水管、配水管等）を耐震管路へ新設・改良・更新することにより、強靱化を図り、上水道の安定供給を行います。

指 標 名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
耐震化率（基幹管路）〔%〕	46	建設水道課	17.8%	18.2%	21.5%				28.7%	74.9%

目標に対する事業進捗評価	管路更新時に耐震管へ布設替えをおこない強靱化対策を実施し水道の安定供給を図ることができた。 【基幹管路延長35,370m、R3年度末基幹管路延長（耐震管）6,305m】
	管路更新時に耐震管へ布設替えをおこない強靱化対策を実施し水道の安定供給を図ることができた。 【基幹管路延長35,370m、R4年度末基幹管路延長（耐震管）6,429m】
	管路更新時に耐震管へ布設替えをおこない強靱化対策を実施し水道の安定供給を図ることができた。 【基幹管路延長38,967m、R4年度末基幹管路延長（耐震管）8,397m】
今後の取り組み	今後も、管路更新時に耐震管へ布設替えによる強靱化対策を実施し安心安全な水道の安定供給に取り組む。
	今後も、管路更新時に耐震管へ布設替えによる強靱化対策を実施し安心安全な水道の安定供給に取り組む。
	今後も、管路更新時に耐震管へ布設替えによる強靱化対策を実施し安心安全な水道の安定供給に取り組む。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
K G I 2	社会資本の改良と長寿命化
指標の説明	(2) 橋梁修繕率の向上
指標の考え方	定期点検により早期に修繕が必要と判定された橋梁を計画的に修繕することで、安全・安心な生活環境を提供します。

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
橋梁修繕率〔%〕	46	建設水道課	72.2%	89.7%	90.1%				93.1%	96.8%

目標に対する事業進捗評価	令和元年度から橋梁定期点検の2巡目を開始し、令和3年度は町内18橋の点検を実施するとともに、橋梁補修工事を11橋実施した。 東郷地域 湖北2号線、松崎線 羽合地域 南谷大橋外、長瀬5号線橋外 泊地域 園海岸7号橋 など
	令和元年度から橋梁定期点検の2巡目を開始し、令和4年度は町内59橋の点検を実施するとともに、橋梁補修工事を2橋実施した。 東郷地域 田畑橋、龍島橋 など 羽合地域 長瀬8号橋、長瀬28号橋 など 泊地域 泊園海岸橋、小浜橋 など
	令和元年度から橋梁定期点検の2巡目を開始し、令和5年度は町内56橋の点検を実施することにより2巡目点検が完了した。また、橋梁補修工事を1橋実施した。 東郷地域 田畑大橋、方面橋 など 羽合地域 海岸橋、南谷公園大橋 など 泊地域 学園橋、石脇橋 など
今後の取り組み	引き続き、橋梁の長寿命化計画に基づき、計画的な点検・補修を実施する。
	引き続き、橋梁の長寿命化計画に基づき、計画的な点検・補修を実施する。
	引き続き、橋梁の長寿命化計画に基づき、計画的な点検・補修を実施する。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
KG I 3	移住定住の推進
指標の説明	県外からのI・J・Uターン者数
指標の考え方	本町の人口減少の抑制を図るため、町外の人々を惹きつける魅力ある暮らしを創出するための施策を展開し、県外の人々に向けた町のPRや相談窓口設置を行い、きめ細かな対応をして、I・J・Uターン者数の増加を図ります。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
県外からのI・J・Uターン者数の累計数〔人〕	47	デジタル・みらい戦略課	304人	463人	600人				1,110	54.1%

目標に対する事業進捗評価	R3実績は136人であった。新型コロナウイルス感染症の拡大により、セミナー、ツアー及び相談会をオンラインにより実施するなど工夫したが、お試し住宅の利用中止など、移住定住検討者が来町する機会が少なくなり、県外からの転入者が少なくなったものと想定される。 R4実績は159人であった。前年度よりIJUターン者数は増加したものの、目標ペースには達していない。新型コロナウイルス感染症の影響により、移動の自粛やイベントの中止・縮小を行わざるをえず、移住定住施策が十分に実施できなかったことが一つの要因と思われる。 R5実績は137人と前年度を下回った。年度前半が前年同期対比50%減となったが移住者の受け皿となるアパートや宅地の売り出しが低調であったことが主因とみている。年度後半はやや回復の兆しがみえた。
今後の取り組み	新型コロナウイルス感染症拡大も見込み、オンラインによるPRを実施しつつ、状況によりお試し住宅の利用制限を緩和するなど柔軟に利用促進を図る。併せて、移住の受け皿となる空き家を確保するべく、空き家の掘り起こしに注力する。 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、移動、イベントの制限が緩和されたことから、都市圏での移住相談会等に積極的に参加するなど、移住定住施策を重点的に実施していく。空き家の掘り起こしについても、地域おこし協力隊等の協力を得ながら引き続き尽力していく。 都市圏での移住相談会等に積極的に参加するとともに、関係人口イベントやPR事業をコーディネート委託事業者と連携し効果的に実施する。金利上昇も見込まれる中、移住者の受け皿として空き家活用を一層推進することとし、空き家一括借り上げ事業の活用や、地域おこし協力隊による空き家掘り起こしに注力していく。

主管課 評 価
D

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
K G I 4	関係人口の拡大
指標の説明	関係人口の拡大
指標の考え方	関係人口の情報発信として、SNS上に「ゆりはまフェローズ」を設置して、町の情報発信を行うとともに、つながりのある人を「ゆりはまフェロー」として湯梨浜町の関係人口と位置付けます。フェローを中心に、実際に来町する人数を増やし、地域住民との交流機会を増加させて自発的で持続可能な関係人口の確立を目指します。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
関係人口の人数〔人〕	47	デジタル・ みらい戦略 課	83人	89人	258人				600	43.0%

目標に対する事業進捗評価	SNS「ゆりはまフェローズ」において、地域おこし協力隊により積極的に情報発信を行い、都市部住民を対象としたオンラインイベント等で「ゆりはまフェローズ」のPRを行った。
	「ゆりはまフェローズ」では従来のフェイスブックに加え、令和4年度からインスタグラムの活用を開始。地域おこし協力隊による積極的な情報発信により、フォロワーの増加人数は前年度を上回った。
	「ゆりはまフェローズ」ではフェイスブック、インスタグラムを活用した地域おこし協力隊による積極的な情報発信により、フォロワーが大幅に増加。また、都市部とオンラインでのセミナーを計3回、現地ツアーを1回実施し、関係人口の増加を図った。
今後の取り組み	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら首都圏セミナーやネットニュース等によりまちの詳細な情報を発信するとともに、引き続きSNSで情報発信を行い、まちに関心を持ち、来町して関わる人を増やしていく。
	引き続きSNSでの情報発信を行うとともに、都市圏住民に向けたセミナーやツアー等を実施することで、関係人口の増加を図る。
	引き続きSNSでの情報発信を行うとともに、都市圏住民に向けたセミナーやツアー等を実施することで、関係人口の増加を図る。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
K G I 5	第三子以降出生数の向上
指標の説明	第三子以降出生数の向上
指標の考え方	急激な少子化が全国的に進む中、安心して子どもを産み育てるための施策を実施することにより、年間30人の第三子以降の出生数を維持し、人口増につなげていきます。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
第4次総合計画期間（R3年度～R7年度）の第3子以降出生数の累積数〔人〕	48	子育て支援課	40人	82人	112人				150	74.7%

目標に対する事業進捗評価	第3子以降の出産及び小学校入学、中学校卒業の祝金を支給し、児童を養育する家庭の経済負担を軽減し、生活の安定を図った。R2年度より第3子以降出生数が年間30人を上回り、増加傾向にある。
	令和4年度の第3子以降の出生数は年度末時点で42人であり、年間目標30人を大きく上回った。第3子以降祝金の制度については、出生届時や広報等で周知を図りながら経済的支援へと繋げている。
	令和5年度の第3子以降の出生数は年度末時点で30人（出産祝金申請数）であり、昨年度比で減少したが年間目標を達成した。祝金の制度について周知を図り、多子世帯への経済的支援を行った。
今後の取り組み	今後も出生届の手続き、広報、HP等で制度周知を図り、祝金を支給することで経済的負担の大きくなる子育て期への継続的な支援として充実させていく。
	引き続き窓口等で制度周知を図り、対象者にもれなく支給することで家庭の経済的支援を行っていく。
	引き続き制度周知徹底を図り、出産、入学、卒業の出費がかさむ時期に多子世帯への経済的支援を継続して行っていく。

主管課 評 価
B

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
KG I 6	都市部からの企業、事業者誘致（ワーケーションの推進）
指標の説明	都市部からの企業、事業者誘致
指標の考え方	豊かな自然、子育てに最適な環境など、本町の持つ強みを存分に活かし、都市部からの企業、事業者を誘致します。

指 標 名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
都市部からの企業、事業者誘致〔企業、事業者数〕	48	まちづくり企画課	0企業（事業者）	0企業（事業者）	0企業（事業者）				3	0.0%

目標に対する事業進捗評価	北浜中跡地については民間提案の公募を行い、7事業者から応募があった。また東郷中跡地は旧東郷学校給食センター等一部施設の利用を希望している町内事業者と事業開始に向けての協議を進めるとともに、その他の用地について民間提案の公募を開始した。
	北浜中学校跡地は、事業開始に向けた協議を行ったが、不調に終わった。東郷中学校跡地は、民間提案制度により、優先交渉権者と事業計画などについて協議中である。
	北浜中跡地については民間提案の公募を行ったものの、正式な応募がなかった。東郷中学校跡地は、民間提案制度による優先交渉権者と基本協定の締結に向け、協議を継続している。
今後の取り組み	北浜中跡地については公共用地有効利用審査委員会で審議後、交渉権者を決定し、事業化に向けて協議を進めていく。東郷中跡地については現在協議中の事業者と契約の締結を行うため、諸条件等の最終調整を行うとともに、北浜中跡地と同様、公共用地有効利用審査委員会での審議を経て、交渉権者と事業化に向けて協議を進めていく。
	都市部からの企業、事業者誘致（ワーケーションの推進）を促すため、産業振興課において、支援制度の拡充を検討したり、ワーケーション関連施設に関する情報を発信していく。
	北浜中跡地の利用は、民間提案募集から企業誘致の手法として進めていく。東郷中学校跡地は、基本協定締結の目途が立ったため、正式な契約に向け協議を進めていく。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
KG I 7	消費者ネットワーク協議会の設置
指標の説明	消費者ネットワーク協議会の設置
指標の考え方	消費者見守りネットワーク協議会を設置し、消費生活相談に関する情報を地域の見守りを行う構成員である福祉関係者、民生委員等の間で共有し、消費者被害の未然防止、早期発見及び拡大防止を図ります。

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
消費者ネットワーク協議会設置数	49	産業振興課	0	1					1	100.0%

目標に対する事業進捗評価	「湯梨浜町消費者見守りネットワーク協議会」設置に向けて福祉関係課で協議を行った。
	民生児童委員を構成員として「湯梨浜町消費者見守りネットワーク協議会」を設置した。
	令和4年度設置完了。
今後の取り組み	民生児童委員を構成員として「湯梨浜町消費者見守りネットワーク協議会」を設置し、地域住民へ注意喚起を行うことで消費者被害の防止を図る。
	地域住民への注意喚起をおこない、消費者被害の防止を図る。
	第4次総合計画実施計画（横断型）にて評価をおこなう。

主管課 評 価
—

KG I 8	公共施設のLED化
指標の説明	公共施設のLED化
指標の考え方	経済産業省「エネルギー基本計画」に基づき、公共施設の照明器具のLED化を推進し、温室効果ガス排出量と電気使用料の削減を同時に実現します。

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
公共施設のLED化（%）	49	施設管理課（総務課）	20.7	40.0	60.5				100.0%	60.5%

目標に対する事業進捗評価	予算の都合もあり、公共施設全体のLED化していない照明数608基（箇所）に対し、LED化を行った照明数は126基（箇所）と概ね計画通りの進捗であった。
	R3年度末時点の公共施設全体のLED化していない照明数482基（箇所）に対し、R4年度中にLED化を行った照明数は117基（箇所）であり、概ね計画通りの進捗であった。
	R4年度末時点の公共施設全体のLED化していない照明数365基（箇所）に対し、R5年度中にLED化を行った照明数は125基（箇所）であり、概ね計画通りの進捗であった。
今後の取り組み	令和4年度からLED化照明に係る有利な財源措置が追加された。（公共施設等適正管理推進事業債）この財源を有効に活用していき、年次的にLED化を進めていく。
	今後も起債などの有利な財源を活用するとともに、全体予算の平準化を勘案しながら、年次計画的に進捗を図っていく。
	今後も起債などの有利な財源を活用するとともに、全体予算の平準化を勘案しながら計画的な進捗を図り、計画期間内での目標達成を目指す。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
K G I 9	美しい自然環境の保全
指標の説明	東郷池の水質改善と環境保全意識の向上
指標の考え方	県や関係機関、ボランティア団体と連携を図りながら、「東郷池水質管理計画」に基づき、水質の浄化と環境整備に努めます。

①-1 東郷池の水質改善（COD）

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
CODの数値（mg/l）	50	町民生活課	5.2	5.5	4.65				5.5	60.0%

目標に対する事業進捗評価	改善傾向が見られ、目標を上回っている。
	数値は上昇しているが、目標値（令和2年度値）並みに留まっている。
	改善傾向が見られ、目標を上回っている。
今後の取り組み	県、環境衛生研究所等と連携し水質監視を継続する。
	県、環境衛生研究所等と連携し水質監視を継続する。
	県、環境衛生研究所等と連携し水質監視を継続する。

主管課 評 価
B

①-2 東郷池の水質改善（全窒素）

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
全窒素の数値（mg/l）	50	町民生活課	0.43	0.53	0.38				0.58	60.0%

目標に対する事業進捗評価	改善傾向が見られ、目標を上回っている。
	数値は上昇したが、目標値を上回っている。
	改善傾向が見られ、目標を上回っている。
今後の取り組み	県、環境衛生研究所等と連携し水質監視を継続する。
	県、環境衛生研究所等と連携し水質監視を継続する。
	県、環境衛生研究所等と連携し水質監視を継続する。

主管課 評 価
B

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
---------	------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

①-3 東郷池の水質改善（全リン）

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
全リンの数値（mg/l）	50	町民生活課	0.057	0.059	0.048				0.069	60.0%

目標に対する事業進捗評価	改善傾向が見られ、目標を上回っている。
	数値は上昇したが、目標値を上回っている。
	改善傾向が見られ、目標を上回っている。
今後の取り組み	県、環境衛生研究所等と連携し水質監視を継続する。
	県、環境衛生研究所等と連携し水質監視を継続する。
	県、環境衛生研究所等と連携し水質監視を継続する。

主管課 評 価
B

② 東郷池の水質浄化に係るボランティア団体数（アダプトプログラム登録団体数）

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
アダプトプログラム登録団体数	50	町民生活課	40	39	40				45	88.9%

目標に対する事業進捗評価	町報等により登録勧奨を行ったが、新規登録はなかった。
	1団体が解散し、減となった。
	町報等による登録勧奨により、1団体が新規登録。
今後の取り組み	新規登録の勧奨とともに、既存団体の活動支援を実施し意欲の高揚を図る。
	新規登録の勧奨とともに、既存団体の活動支援を実施し意欲の高揚を図る。
	新規登録の勧奨とともに、既存団体の活動支援を実施し意欲の高揚を図る。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
---------	------------------

③ こどもエコクラブ団体数

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
こどもエコクラブ団体数	50	町民生活課	1	1	1				5	20.0%

目標に対する事業進捗評価	1 団体に補助金の交付を行った。コロナ禍により活動を自粛する団体が多い。
	1 団体に補助金の交付を行った。コロナ禍により活動を自粛する団体が多い。
	1 団体に補助金の交付を行った。
今後の取り組み	コロナ禍でも実施できる活動を提案するなどし、登録団体を増加させる。
	コロナ禍後に向けて、各小学校等に広報し登録及び活動を勧奨する。
	各小学校等に広報し登録及び活動を勧奨する。

主管課 評 価
D

KG I 10	環境保全型農業の拡大
指標の説明	環境保全型農業の拡大
指標の考え方	環境負荷に配慮し、環境保全型農業に取り組むとともに、取組組織の拡大を目指します。

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
環境保全型農業直接支払事業の拡大	50	産業振興課	1	1	1				2	50.0%

目標に対する事業進捗評価	化学肥料、化学合成農薬を低減する取組に加えてカバークロップの取組を行い、環境に配慮した農作物の生産を行った。
	農薬や肥料の使用回数を県が定めるレベルの5割低減で取り組み、併せてカバークロップを行った。
	農薬や肥料の使用回数を県が定めるレベルの5割低減で取り組み、併せてカバークロップを行った。令和4年度取り組みに対し、26aの面積増となった。
今後の取り組み	引き続き、取組農地の増加を目指し、環境に優しい農業生産を行う。
	取り組み面積の増加を目指す。
	令和5年度取り組み面積324aを6年度以降も維持する。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
K G I 1 1	災害に強いまちづくりの推進 (1) 自主防災組織育成事業
指標の説明	自主防災組織における地区防災計画策定推進、訓練等の実施
指標の考え方	「自分たちの地域は自分たちで守る」ために、自主防災組織における地区防災計画策定を推進するとともに、講習会、訓練に対する支援を行います。

① 地区防災計画の策定地区

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
地区防災計画の策定地区 (累積地区数)	51	総 務 課	43	43	43				60	71.7%

目標に対する事業進捗評価	地区防災計画の策定状況を把握するために調査を行い、策定地区を確認した。その後、年度内に策定する地区が増え、43地区の策定となった。
	地区での集会在敬遠される中、未策定地区にアプローチして推進することが困難であった。
	防災講習や訓練の実施は増え、地区防災計画の重要性は認知されているが、未策定地区の計画策定につながっていない。
今後の取り組み	未策定地区や未回答の地区に地区防災計画の様式を示し、策定へつなげていく。
	徐々に開催が増えてきた防災講習会の機会に、策定を推進していく。
	能登半島地震以降、地域で行う防災対策の重要性が高まっており、地区防災計画策定や見直しの必要性について、防災講習会等の機会をとらえて周知し、計画策定や見直しを推進していく。

主管課 評 価
D

② 防災講習・訓練の実施地区

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
防災講習・訓練の実施地区	51	総 務 課	12	18	26				60	43.3%

目標に対する事業進捗評価	コロナ禍で第7波が長引くにつれ、防災講習・訓練を計画していた自治体が中止の判断をした件数が多かった。自治会以外の教育施設や社会福祉施設からの開催もあり、実績につなげることができた。
	各地区（団体）で感染防止対策を取り、防災講習会を開催する取り組みが見られ、件数が徐々に増えた。
	各地区（団体）で行う防災講習や訓練の関心が高まっており、防災特別対策官の派遣による実施件数が増加した。
今後の取り組み	コロナ禍においても災害は発生することをから、感染防止対策を徹底して、講習会等の開催を推進していく。
	徐々に開催が復活してきており、引き続き、様々な団体からの講習会の申込みに応えていく。
	能登半島地震以降、地域で行う防災対策の重要性が高まっており、引き続き各地区（団体）で行われる講習会や訓練の推進を図るとともに、派遣要請に応えていく。

主管課 評 価
A

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
K G I 1 1	災害に強いまちづくりの推進 (2) 東郷池周辺の内水浸水対策の推進
指標の説明	松崎地区内水対策事業の推進
指標の考え方	東郷池周辺に家屋等の浸水被害が発生していることから町民の安全・安心な生活環境を確保するため、東郷池周辺の内水浸水対策として雨水ポンプ場整備等の下水道(雨水)事業を進め、早期完成を図ります。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
雨水ポンプ場の整備〔進捗率〕	51	建設水道課	30.0%	50.0%	50.0%				100.0%	50.0%

目標に対する事業進捗評価	龍島、松崎地区の2箇所雨水ポンプ場の建設を計画し、龍島ポンプ場について令和4年度早期完成に向けて建設を実施している。(達成率30%)
	龍島ポンプ場についてはR4.9月末に竣工した。(達成度50%)
	他事業(県)との事業調整により、R5年度は事業進捗無し。
今後の取り組み	令和4年度に龍島ポンプ場の早期完成を目指すとともに、松崎地区(新町川)雨水ポンプ場建設に向け、県との協議及び工事実施に向けて取り組む。
	松崎地区(新町川)雨水ポンプ場建設の事業実施に向け、引き続き関係者や県との協議・調整及び工事実施に向けて取り組む。
	R6年度よりポンプ場の建設工事に着手。早期完成を目指す。

主管課 評 価
D

K G I 1 2	防災重点ため池の耐震整備
指標の説明	防災重点ため池の耐震整備
指標の考え方	県が実施する防災重点ため池の耐震調査の結果に基づき、整備を実施し、ため池施設の防災対策を講じます。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
耐震調査及び耐震補強を実施〔個所数〕	52	産業振興課	1	1	1				耐震調査の結果耐震補強が必要な個所数	20.0%

目標に対する事業進捗評価	令和3年度、県による防災重点農業用ため池を耐震調査した結果、2件中1件が耐震基準を下回る結果となった。
	令和4年度、県による宮内地区奥ため池改修に係る実施設計を実施した。
	令和5年度、県による宮内地区奥ため池改修工事着手、福永地区谷奥ため池実施設計着手。
今後の取り組み	R2及びR3耐震調査した結果、防災重点農業用ため池9箇所中4箇所が耐震基準を満たしていない。今後、耐震結果を基に地元の意見を聴きながら改修工事实現に向けて地元働きかけていく。R3現在で、2件改修工事予定。
	令和5年度は、宮内地区奥ため池改修工事開始と福永地区谷奥ため池改修に係る実施設計を実施予定とする。
	令和6年度、県による福永地区谷奥ため池改修工事着手。宮内地区奥ため池は、継続して改修工事を実施。2池とも令和6年度完了予定。また、宮内地区堤平ため池廃止工事を実施予定。前記の3池以外で、劣化等の基準以下のものについては地元へ改修を働きかけていく。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	1. 安全で住みやすいまちづくり
---------	------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

KG I 13	航空レーザー測量の活用
指標の説明	航空レーザー測量の活用
指標の考え方	航空レーザー測量技術により、森林の資源情報と緻密地形情報を取得し、計画的な森林活用に活用します。

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
航空レーザー測量実施〔進捗率〕	52	産業振興課	0	0	100				町内全森林区域実施	50.0%

目標に対する事業進捗評価	県実施により当初計画から1年遅れて、令和5年度レーザー測量することとなっている。
	令和5年7月以降に、県で航空レーザー測量を実施する予定。
	令和5年度の県実施航空レーザー測量の成果を令和6年度中に受領。
今後の取り組み	県が令和5年度測量を実施し、令和6年度から測量データを活用していく予定。
	令和6年度から、県より航空レーザー測量データの提供を受け、林業等に活用していく予定。
	令和6年度、航空レーザー測量データを活用し、森林経営管理に係る意向調査地区の計画見直しを行う。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	2. にぎわいと活力あるまちづくり
---------	-------------------

KG I 14	スマート農業の導入
指標の説明	スマート農業の導入
指標の考え方	本町の農業就業人口は65歳以上の農業者が7割を超えることから、作業の省力化を図ることが必要です。また軽労化は将来の就業人口を確保するためには不可欠であることから、機械作業の自動化を推進します。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
水稻を中心にスマート農業に対応した機械整備を支援（水稻栽培の機械化：台）	53	産業振興課	1	1	3				5	100.0%

目標に対する事業進捗評価	ロボットモア、防除用ドローンの購入を支援し、省力化を図った。
	防除用ドローンの購入を支援した。
	トラクター、農薬散布用ドローン2機の購入を支援した。
今後の取り組み	トラクター、コンバインなど、大型の農業機械の整備を支援したい。
	Wi-Fiが届きにくい環境があり、担当課へ必要な整備を求めたい。
	Wi-Fiが届きにくい環境があり、担当課へ必要な通信環境整備を求めたい。

主管課 評 価
B

KG I 15	特産果物の生産量の維持拡大
指標の説明	特産果物の生産量の維持拡大
指標の考え方	梨・ブドウ等果樹生産を中心とする本町農業において樹園地は一朝一夕には形成できない貴重な財産であり、高齢などの事情により営農が取り止めとなる優良な樹園地を新規就農者や規模拡大農家へ譲り渡す体制を構築し、特産果樹の生産面積の維持と生産者の経営支援を図ります。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
優良樹園地の継承面積（ha）	54	産業振興課	0.4	0.7	0.3				2	70.0%

目標に対する事業進捗評価	梨果樹園の継承（40a）を行った。現在、貸借にかかる継承（30a）について協議中。
	貸借40a、譲渡30aの継承があった。
	譲渡30aの継承があった。
今後の取り組み	令和5年の地域プラン終了後も引き続き制度を継続し、優良園の継承を円滑に行いたい。
	令和5年の地域プラン終了後も引き続き制度を継続しできるよう、県へ支援を協議中。
	地域プラン終了後、県の支援が縮小したため、令和6年度以降、本事業は買い受けのみを対象とする。

主管課 評 価
D

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	2. にぎわいと活力あるまちづくり
---------	-------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

KG I 16	農業後継者の育成
指標の説明	農業後継者の育成
指標の考え方	町内外へ湯梨浜町の農業を宣伝し、特産の東郷二十世紀梨をはじめ、イチゴ、ブドウ、スイカなどの新規就農者の育成を図ります。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
新規就農者数の累計数 〔人〕	54	産業振興課	6	8	1				12	8.3%

目標に対する事業進捗評価	少しずつではあるが親元就農による就農が続いている。
	親元就農研修修了者が1人、西瓜での新規就農が1人あった。
	親元就農研修修了者1人が就農。
今後の取り組み	兼業農家が多くあり、退職後の就農についてもPRしたい。
	農大と連携し、生産部を通じた受け入れを強化したい。
	親元就農研修の要望が毎年のようにあるため、認定農業者の増加および研修制度の周知を図る。

主管課 評 価
B

KG I 17	多面的交付金活動の促進
指標の説明	多面的機能支払交付金活動集落の拡大
指標の考え方	農業者の高齢化・担い手不足の現状において、農地と生産基盤施設の維持活動を推進するため、地域の実情にあわせた広域化も含む多面的機能支払交付金活動組織の育成を図ります。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
多面的機能支払交付金 活動集落数	54	産業振興課	19	20	20				30	66.7%

目標に対する事業進捗評価	複数の集落で構成される広域活動組織を中心に、取組農地が増加された。
	8組織で取り組み、原環境保全組合では災害軽減に資する「田んぼダム」を実施した。
	広域組織を含む8組織で取り組みを実施。適切に農地を維持管理した。
今後の取り組み	未取組み集落への事業推進を継続する。
	他集落への事業拡大に取り組む。
	令和5年度を取組期間満了にともない、1組織減。あらたな組織の取り組みについて事業説明などを行っていきたい。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	2. にぎわいと活力あるまちづくり
---------	-------------------

KG I 18	中小企業・小規模企業の事業承継推進
指標の説明	中小企業・小規模企業の事業承継推進
指標の考え方	事業経営者の高齢化や後継者不足の現状から中小・小規模企業を中心に構成する地域経済の持続的発展のため事業者の事業承継を推進します。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
事業承継に着手した事業所数	55	産業振興課	0事業所	2事業所	8事業所				15	53.3%

目標に対する事業進捗評価	町商工会と連携しながら事業承継に取り組まれる事業者の相談支援等を行っているが、実現には至らなかった。(R3 0事業所)
	町商工会と連携しながら事業承継に取り組まれる事業者の相談支援等を行っており、2事業所の事業承継(親族内承継)を支援した。(R4 2事業所)
	町商工会と連携しながら事業承継に取り組まれる事業者の相談支援等を行っており、6事業所の事業承継(親族内承継4事業所、第三者承継2事業所)を支援した。(R5 6事業所)
今後の取り組み	国(事業承継・引継ぎセンター、日本政策金融公庫)、県(リレイ)、町商工会など関係機関と連携しニーズの掘り起こしやマッチングを進めていく。
	国(事業承継・引継ぎセンター、日本政策金融公庫)、県(リレイ)、町商工会など関係機関と連携しニーズの掘り起こしやマッチングを進めていく。
	令和5年度に事業承継を円滑に進めていくため、町、公庫鳥取支店、町商工会の3者で連携協定を締結した。引き続き、国(事業承継・引継ぎセンター、日本政策金融公庫)、県(リレイ)、町商工会など関係機関と連携しニーズの掘り起こしやマッチングを進めていく。

主管課 評 価
C

KG I 19	観光客の誘致促進
指標の説明	観光人口(宿泊者数)の増
指標の考え方	国内交流人口が減少する中で、地域の豊かな自然や温泉などの資源、特産物を活用した体験型観光の推進、イベント開催やボランティア活動の支援を通じた観光客の誘致促進を図り、まちの産業基盤である観光業の振興を図ります。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
観光人口(宿泊客数)	55	産業振興課	60,584人	98,999人	105,047人				170,000	61.8%

目標に対する事業進捗評価	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、宿泊者は激減した。
	前年度(R3年度)と比較して、63%増ではあるが、目標達成(R7年度末：17万人)には程遠い状況である。
	コロナ禍のR3までから、5類移行後は一転してR4、R5と回復傾向にあるものの、増加率は鈍化しており目標達成(R7年度末：17万人)には程遠い状況である。
今後の取り組み	新型コロナウイルス感染対策を実施しながら、国、県の観光支援策と併せて町独自の観光支援策も実施し、観光客の誘致促進を図る。
	ワーケーション推進、教育旅行やインバウンド誘致などの多角的な取り組みを展開するとともに、国、県、中部観光推進機構などの観光支援策とも連携し、観光客の誘致促進を図る。
	関西万博やワールドマスターズ大会などの大型イベントとそれに伴うインバウンド需要を起爆剤に、県や中部DMOとの連携で鳥取県中部への回遊客増を図り、増加分を町内宿泊へ取り込む施策を推進していく。

主管課 評 価
D

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	2. にぎわいと活力あるまちづくり
---------	-------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

KG I 20	地域資源を活用した観光商品の開発
指標の説明	地域資源を活用した観光商品の開発
指標の考え方	二十世紀梨、温泉、東郷池、グラウンド・ゴルフやウォーキングなどの地域資源を活用した新しい観光商品を開発し、交流人口の拡大を図ります。

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
新しく開発した観光商品数〔企画数〕	56	産業振興課	1企画	6企画	6企画				10	60.0%

目標に対する事業進捗評価	湯梨浜町内のブドウを使用しワイン醸造を行い商品化することにより、地域資源を活用した商品開発につながった。（R3 1企画）
	湯梨浜町産「のきょう梅（野花豊後）」を使用し、3事業者が5つの商品（梅シロップ、煮魚の梅だれ、野花梅マフィン、野花梅琥珀糖、野花梅ブリュレタルト）を開発・商品化することにより、地域資源を活用し産業の活性化につながった。（R4 5企画）
	相談はいくつかあったが事業化には至らなかった。（R5 0企画）
今後の取り組み	様々な地域資源を活用した商品開発や交流人口の拡大を図るため、引き続き支援していく。
	様々な地域資源を活用した商品開発や交流人口の拡大を図るため、引き続き支援していく。
	様々な地域資源を活用した商品開発や交流人口の拡大を図るため、引き続き支援していく。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	2. にぎわいと活力あるまちづくり
KG I 2 1	スポーツを通じたインバウンドの推進
指標の説明	グラウンド・ゴルフやウオーキングを生かした国際交流推進
指標の考え方	昭和57年に本町（旧泊村）で考案されたグラウンド・ゴルフと、東郷池周辺が全日本ノルディック・ウォーク連盟公認コース第1号に選ばれたウオーキングとを活用し、海外での普及活動などにより競技やコースの認知度を高め、「発祥地」「公認コース第1号」という資源を活かして「グラウンド・ゴルフの聖地」「ウオーキングリゾートの町」としての地位を確立させ、交流人口の増加を図ります。

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
海外からのイベント参加者数	56	デジタル・みらい戦略課	0	0	62				1,480	4.2%

目標に対する事業進捗評価	グラウンド・ゴルフ国際大会、天女ウオークとも新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止したが、グラウンド・ゴルフにおいては用具販売により海外普及を図り、ウオーキングにおいては済州オルレとリモートミーティングを実施して交流を維持した。
	グラウンド・ゴルフ国際大会、天女ウオークとも新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う渡航制限等により、国外からの参加者はゼロであった。グラウンド・ゴルフにおいては用具販売により海外普及を図った。ウオーキングについては、済州オルレウーキングフェスティバルに参加する予定であったが、渡航制限等により参加を取りやめた。
	グラウンド・ゴルフ、ウオーキングとも海外での普及活動を積極的に行い、グラウンド・ゴルフ国際大会には62人参加があったが、天女ウオークには参加はなかった。グラウンド・ゴルフのトップセールスを2か国で実施でき、次年度以降の本町大会への参加者増と今後の国際普及の広がり期待が持てる内容であった。
今後の取り組み	新型コロナウイルス感染症拡大収束後を見据え、今まで築き上げた海外諸国との交流関係を維持し、飛躍的なインバウンドの促進を図る。
	新型コロナウイルス感染症拡大収束後を見据え、今まで築き上げた海外諸国との交流関係を維持し、飛躍的なインバウンドの促進を図る。
	海外での普及活動の効果は当該年度にはあらわれなかったが、令和6年度の各大会の参加には結びつく見込みである。引き続き積極的なPR活動に取り組みたい。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	2. にぎわいと活力あるまちづくり
K G I 2 2	羽衣石城跡及び付城群の国史跡指定と活用の推進
指標の説明	羽衣石城跡及び付城群の国史跡指定と史跡を活用した地域活性化の推進
指標の考え方	羽衣石城跡及び付城（十万寺・番城）の歴史的な価値を明確にし、令和5年度に国史跡の指定を目指します。さらに、保存・活用・整備等に向けた基本方針を定め、羽衣石城跡を中心に城山部分を望ましい姿で保存・管理するため環境整備を行い、後世に継承していきます。また、多くの人が羽衣石城跡を見学し、その価値や魅力について理解を深めるように利活用を図るとともに、「まちの宝」という認識を高め、現地ガイドや利活用に関わる運営組織を設置します。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
運営組織の設置数	57	生涯学習・ 人権推進課	0	0	0				1	0.0%

目標に対する事業進捗評価	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学術調査委員会を開催することができなかった。十万寺跡の発掘調査、委員による現地確認及び指導については実施できた。
	現地の発掘調査、遺構分布調査を実施し、学術調査委員会を開催できた。また、文献調査により新たな文献を確認することができた。
	学術調査委員会を開催し、総合調査報告書の作成を進めていたが、新出史料があり、その検証に時間を要し、翌年度6月頃の発刊見込みとなった。
今後の取り組み	発掘調査及び文献調査等を実施し、学術調査委員会による評価・検証を行う。
	発掘調査及び文献調査等の資料整理作業を進めるとともに、学術調査委員会による評価・検証を行い総合調査報告書の作成に取り組んでいく。
	総合調査報告書の刊行と土地所有者の同意など国史跡指定に向けた具申書等の準備を進めていく。

主管課 評 価
D

K G I 2 3	テレワークの導入推進
指標の説明	テレワークの導入推進
指標の考え方	町内でテレワークの導入を推進していき、新しい生活様式の下、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方を実現します。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
テレワークの導入事業者数	57	産業振興課	4	3	8				1	100.0%

目標に対する事業進捗評価	テレワークやリモートワークを行うための環境整備を行った事業者に対して補助金を交付し推進した。
	R4年度の活用事業者は3事業者であった。R3年度にR7目標である1事業者を達成したため、達成率は100%とする。
	地域おこし協力隊（関係人口促進）と連携しながらワーケーションツアーの実施やPR等により推進した。
今後の取り組み	補助金制度の活用やワーケーション推進事業と連携しながら、引き続きテレワークができる環境を整えていく。
	新型コロナウイルス感染症が収束に向かっており、地元事業者においては地元コロナ前の就業形態に戻っている状況もある半面、都市圏の企業がワーケーションなど新たな働き方に着目している状況がある。今後もワーケーション推進事業と連携しながら、引き続きテレワークができる環境を整えていく。
	設備導入がほぼ完了したので、今後はテレワークやリモートワークを誘致するため、豊かな自然や温泉などの観光資源を活かしたワーケーションの推進や町独自の観光ツアーなどによる誘客活動を強化し、コロナ後の観光需要の回復を図っていく。

主管課 評 価
A

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	3. 未来を創造する先駆的なまちづくり
---------	---------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

KG I 24	AI・RPAの導入推進
指標の説明	AI・RPAの導入推進
指標の考え方	本町にAI・RPAを導入し、多様化する住民ニーズに対応した行政サービスを、持続可能な形で提供する体制を構築します。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
AI・RPA導入業務数	58	デジタル・みらい戦略課	0	0	3				5	60.0%

目標に対する事業進捗評価	令和3年度は資料収集等を実施。県が主体となって賛同する市町村と共同調達を行う方向で声がけをしており、その動向を注視。
	令和4年度中に全市町村が集まって協議した結果、共同調達を行う利点が薄いことから、協議部会は解散・各自治体が単独調達と決したため、改めて検討することとした。
	AI-OCRを導入し3業務について電子化を図った。AI議事録作成システムと併せて庁内へ展開を進めていきたい。庁内にDX推進本部を立ち上げ、業務効率化に横断的に取り組む組織基盤を整えた。
今後の取り組み	技術の進歩が速く、新製品も毎月のように出ており導入タイミングを見極めたうえで実施する方向。
	先行導入の自治体の製品がさまざまであり、使い勝手や機能など聞き取りをしながら導入タイミングを見極めた上で実施する方向。
	DX推進本部を中心に外部登用のCIO補佐官の助言を受けながら、各課連携を図り、職員研修と先進事例の共有をもとに、業務効率化に向けた導入検討を進める。窓口RPAについてはベンダーとの調整が付かないこととなり、システム標準化が終わる（R7）までは導入を見送る。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
---------	-----------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

K G I 25	地域での支え愛活動支援事業の推進
指標の説明	地域での支え愛活動支援事業の推進
指標の考え方	地域住民が主体となって、地域支え愛マップの作成を通じ、障がいのある人や要介護者等の要配慮者に対する災害時の避難支援等の仕組みづくりや平常時の見守り体制づくりを行うことにより、要配慮者が身近な地域で安全・安心に暮らすための地域を目指します。

(1) 支え愛活動支援事業の推進

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
支え愛活動支援事業に取り組む地区数	59	福 祉 課	36	36	36				50	72.0%

目標に対する事業進捗評価	令和3年度末までの地域支え愛マップ作成済み地区数は37地区となり、目標の50地域に向け、計画通り推移している。
	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和4年度末までの地域支え愛マップ作成済み地区数は変わらなかったが、目標の50地域に向け、計画通り推移している。
	支え愛マップの更新や具体的な避難支援体制の整備、充実に取り組んだ地区は3地区あったが、新たに支え愛マップの作成に取り組んだ地区はなかった。
今後の取り組み	住民主体の共助による地域防災力を高めるため、町社会福祉協議会及び防災担当課と連携を取りながら、マップ作りを推進していく。また、マップの更新や有効な活用についても呼びかけていく必要がある。社会福祉協議会と連携し、支え愛活動支援事業についての活用を進めるPRを行っていく。（社協広報紙、区長の他、町報、民生児童委員などの関係機関等に呼びかけていく）
	住民主体の共助による地域防災力を高めるため、町社会福祉協議会及び防災担当課と連携を取りながら、マップ作りを推進していく。また、マップの更新や有効な活用についても呼びかけていく必要がある。社会福祉協議会と連携し、保健福祉活動など支え愛活動支援事業についての活用を進めるPRを行っていく。（社協広報紙、区長の他、町報、民生児童委員などの関係機関等に呼びかけていく）
	支え愛マップの更新や避難支援体制の整備に取り組む地区はあるものの、近年、新規に支え愛マップを作成する地区がない状況である。社会福祉協議会や民生児童委員協議会などの福祉関係機関と連携し、広報紙や各種会議での呼びかけをする一方で、地域防災とセットで本事業の推進をする必要がある。防災担当課との連携を強化し、裾野拡大に努める。

主管課 評 価
D

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
---------	-----------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

(2) 防災士の育成

指標の説明	防災士の育成
指標の考え方	県が行う防災士養成研修受講（研修費用）の補助を行います。 資格取得後は、地域防災組織のリーダーとして地域の中で自助・共助の考え方の普及や災害時における共助の取組の指導助言を行うなど、住民が安全・安心に暮らすことができる地域づくりを進めます。

① 防災士がいる地区数

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
防災士がいる地区数	59	総 務 課	21	22	23				40	57.5%

目標に対する事業進捗評価	新たに4名が防災士の資格を取得し、防災士がいる地区数を増やすことができた。
	新たに2名が防災士の資格を取得し、防災士がいる地区を1地区増やすことができた。
	新たに2名が防災士の資格を取得し、防災士がいる地区を1地区増やすことができた。（累計：39名うち女性4名）
今後の取り組み	区長等に地域での防災士の重要性を理解していただき、資格取得の斡旋を図る。また、防災士の活動の場を設けて普及を図る。
	区長等に地域での防災士の重要性を理解していただき、引き続き資格取得の斡旋を図る。
	区長等に地域での防災士の重要性を理解していただき、引き続き資格取得の斡旋を図る。あわせて女性防災士の資格取得を依頼する。

主管課 評 価
C

② 地域防災協議会の設置

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
地域防災協議会設置数	60	総 務 課	0	0	0				1	0.0%

目標に対する事業進捗評価	具体的な取り組みに至っていない。
	具体的な取り組みに至っていない。
	県による防災士の広域ネットワーク登録が行われ始めたが、状況が進んでおらず活動につながっていない。
今後の取り組み	派遣講習などで、自主防災組織の活動を充実させていき、組織化へとつなげる。
	派遣講習などで、自主防災組織の活動を充実させていき、組織化へとつなげる。
	本町登録防災士の広域ネットワークの登録や活動状況を確認しながら、町の協議会の設置を検討する。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
---------	-----------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

(3) 地域の多様な関係者による支援体制の構築に向けた取組

指標の説明	多機関連携による支援体制の構築
指標の考え方	相談支援（地域の様々な相談を包括的に受け止める場の確保、多機関の協働による包括的支援）、参加支援、地域づくりの3つの機能を一体的に実施し、制度の狭間にある福祉課題等への包括的な支援体制を構築します。

(3)－1 多機関連携による支援体制の構築（課題抽出件数）

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
課題抽出件数	60	福 祉 課	14	11	13				50	26.0%

目標に対する事業進捗評価	新規5件、継続9件。継続して支援が必要な複合化・複雑化した課題を抱える世帯が多い。
	新規4件、継続7件。支援終了3件。継続して支援が必要な複合化・複雑化した課題を抱える世帯が多い。
	新規5件、継続8件、支援終了5件。継続して支援が必要な複合化・複雑化した課題を抱える世帯が多い。
今後の取り組み	継続的に支援の必要な複雑化した課題を抱える世帯に関する相談が多い。複合課題を抱える世帯にも多機関で支援する体制による支援が可能となってきた。
	複合化・複雑化した課題を抱える世帯に対し、関係機関がチームとなって支援を行う体制を充実させる。
	複合化・複雑化した課題を抱える世帯に対し、関係機関がチームとなって支援を行う体制を充実させる。

主管課 評 価
C

(3)－2 多機関連携による支援体制の構築（課題解決率）

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
課題抽出件数のうち課題解決につながる率〔%〕	60	福 祉 課	7%	27%	38%				50%	76.0%

目標に対する事業進捗評価	目標は50%であるが、複雑で複合化した課題を抱える世帯が多いので、伴走型支援を継続するケースが多い。
	複雑化・複合化した課題を抱えている世帯が多いので、すぐに課題解決につながらないが、伴走型支援を継続していく。
	複雑化・複合化した課題を抱えている世帯が多いので、すぐに課題解決につながらないが、伴走型支援を継続していく。
今後の取り組み	伴走型支援が中心ではあるが、一つずつ課題を解決し世帯の抱える課題全てが対決に向かうよう支援を継続したい。
	関係機関がチームとなって伴走型支援を行うことにより、一つずつ課題を解決できるよう支援していく。
	関係機関がチームとなって伴走型支援を行うことにより、一つずつ課題を解決できるよう支援していく。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
---------	-----------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

(4) 住み慣れた地域において支え合いを推進する組織づくり

指標の説明	住み慣れた地域において支え合いを推進する組織づくり
指標の考え方	社会参加や交流を通じた日常的なかかわりの中で、見守り、相談、課題の発見ができるよう、地域住民・団体・専門職・地域外の様々な人や団体がつながり、地域の中で協働し支え合う組織づくりを推進します。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
住み慣れた地域において支え合いを推進する地区数	60	福 祉 課	0	0	0				2	0.0%

目標に対する事業進捗評価	コロナ禍でもあり、集落等での活動が控えられており、支え合いを推進する活動は捗っていない。
	コロナ禍でもあり、集落等での活動が控えられており、支え合いを推進する活動は捗っていない。
	コロナは5類に移行したものの、集落の活動は停滞傾向であり、支え合いを推進する活動は捗っていない。
今後の取り組み	コロナ禍には気を付けながらも、地域における支え合いを推進する活動をできるところから進めていく。
	コロナ禍には気を付けながらも、地域における支え合いを推進する活動をできるところから進めていく。
	組織としては複数の集落の合議体（地区公民館、小学校区など）を想定していた。数年にわたるコロナ禍で、合議体の基礎となる各集落の地域活動が停滞している。まずは保健福祉会など各集落単位での地域福祉活動の活性化を進めた上で、組織化について検討していく。

主管課 評 価
D

(5) 住民の主体的な地域づくりの推進

指標の説明	ボランティア活動の推進とNPO活動の支援
指標の考え方	人と人とのつながりを大切にし、住民が真の豊かさを実感できる地域社会を実現するため、まちづくりのパートナーとして、ボランティア活動の推進とNPO活動の支援を図ります。

① いきいきボランティアの登録団体数

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
いきいきボランティアの登録団体数	61	まちづくり 企 画 課	42	45	46				48	95.8%

目標に対する事業進捗評価	計画どおりに進んでいる
	2カ年で7団体の増であり、計画どおりに進んでいる
	3カ年で8団体の増であり、計画どおりに進んでいる
今後の取り組み	コロナ禍でボランティア活動が難しい状況ではあるが、引き続き町報等により団体の活動紹介を行い、各種ボランティア活動の推進を図っていく。
	引き続き町報等により団体の活動紹介を行い、各種ボランティア活動の推進を図っていく。
	引き続き町報等により団体の活動紹介を行い、各種ボランティア活動の推進を図っていく。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
---------	-----------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

② NPO法人の設置数

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
NPO法人の設置数	61	まちづくり 企 画 課	1	1	1				3	33.3%

目標に対する事業進捗評価	計画どおりに進んでいる。
	増減なし。
	増減なし。
今後の取り組み	引き続き広報紙等を通じて事業の周知を図る。
	引き続き広報紙等を通じて事業の周知を図る。
	引き続き広報紙等を通じて事業の周知を図る。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
---------	-----------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

KG I 26	障がい者の就労促進
指標の説明	障がい者福祉施設利用者の一般就労への移行
指標の考え方	障がい福祉施設利用者が、就労移行支援や就労継続支援（A型、B型）などのサービスを通じて、一般就労へ移行することを促進します。

① 就労移行支援から一般就労またはA型への移行者

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
就労移行支援から一般就労またはA型への移行者数	61	福 祉 課	0	0	0				1	0.0%

目標に対する事業進捗評価	就労移行支援から一般就労やA型への移行はなかった。
	就労移行支援から一般就労やA型への移行はなかった。
	就労移行支援から一般就労やA型への移行はなかった。
今後の取り組み	一般就労を希望する利用者に対し、引き続き就労移行支援の給付を行い、就労に必要な知識や訓練の習得を支援する。
	一般就労を希望する利用者に対し、引き続き就労移行支援の給付を行い、就労に必要な知識や訓練の習得を支援する。
	一般就労を希望する利用者に対し、引き続き就労移行支援の給付を行い、就労に必要な知識や訓練の習得を支援する。

主管課 評 価
D

② 就労継続支援A型から一般就労への移行者数

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
就労継続支援A型から一般就労への移行者数	61	福 祉 課	0	1	0				1	0.0%

目標に対する事業進捗評価	就労継続支援A型から一般就労への移行はなかった。
	就労継続支援A型から一般就労への移行が1件あり、目標を達成した。
	就労継続支援A型から一般就労への移行はなかった。
今後の取り組み	一般就労を希望するA型利用者に対し、引き続きサービス給付を行う。
	一般就労を希望するA型利用者に対し、引き続きサービス給付を行い、就労に関する情報提供を行う。
	一般就労を希望するA型利用者に対し、引き続きサービス給付を行い、就労に関する情報提供を行う。

主管課 評 価
D

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基本目標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
------	-----------------------

③ 就労継続支援B型から一般就労またはA型への移行者数

指標名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
就労継続支援B型から一般就労またはA型への移行者数	61	福祉課	3	4	0				2	0.0%

目標に対する事業進捗評価	就労継続支援B型から一般就労への移行が3件あり、目標を達成した。
	就労継続支援B型から一般就労への移行が1件あり前年度からの累積を4件とした。
	就労継続支援B型から一般就労等への移行はなかった。
今後の取り組み	一般就労やA型への移行希望者に対し、就労継続支援B型の給付を継続しながら、就労に関する情報提供を行う。
	一般就労やA型への移行希望者に対し、就労継続支援B型の給付を継続しながら、就労に関する情報提供を行う。
	一般就労やA型への移行希望者に対し、就労継続支援B型の給付を継続しながら、就労に関する情報提供を行う。

主管課 評価
C

④ その他（生活介護、自立訓練等）から一般就労またはA型への移行者数

指標名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
その他（生活介護、自立訓練等）から一般就労またはA型への移行者数	61	福祉課	0	0	0				3	0.0%

目標に対する事業進捗評価	生活介護、自立訓練等から一般就労やA型への移行はなかった。
	生活介護、自立訓練等から一般就労やA型への移行はなかった。
	生活介護、自立訓練等から一般就労やA型への移行はなかった。
今後の取り組み	一般就労やA型への移行を希望する利用者に対し、引き続き各サービスの給付を行い、就労に関する情報提供を行う。
	一般就労やA型への移行を希望する利用者に対し、引き続き各サービスの給付を行い、就労に関する情報提供を行う。
	一般就労やA型への移行を希望する利用者に対し、引き続き各サービスの給付を行い、就労に関する情報提供を行う。

主管課 評価
D

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
---------	-----------------------

⑤ 就労定着支援事業利用者数

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
就労定着支援事業利用者数	61	福 祉 課	0	0	0				2	0.0%

目標に対する事業進捗評価	就労定着支援事業の利用者はなかった。
	就労定着支援事業の利用者はなかった。
	就労定着支援事業の利用者はなかった。
今後の取り組み	一般就労やA型への移行に際し、本サービスの利用勧奨を継続する。
	一般就労やA型への移行に際し、本サービスの利用勧奨を継続する。
	一般就労やA型への移行に際し、本サービスの利用勧奨を継続する。

主管課 評 価
D

KG I 27	家庭で子育てする環境の整備
指標の説明	家庭で子育てする環境の整備
指標の考え方	こども園に入園させるのではなく、引き続き「家庭で子育てをしたい」という保護者の希望を叶えるため、経済的不安を緩和し、安心な育児環境の整備を進めます。

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
2歳未満の児童を家庭で子育てする家庭の割合〔%〕	62	子育て支援課	67.7	75.5	74.3				70.8	104.9%

目標に対する事業進捗評価	年度末における2歳未満児の家庭での保育率は67.7%であった。制度の周知については、妊娠届、出生届、新生児訪問、転入手続等の際にもれなく行い、対象と思われる方には具体的な申請方法を示し制度利用に繋げている。
	年度末における2歳未満児の家庭での保育率は75.52%であった。制度の周知については、出生届、新生児訪問、転入手続等の際にもれなく行い、対象と思われる方には具体的な申請方法や申請期間を案内している。
	年度末における2歳未満児の家庭での保育率は74.3%であった。制度の周知については、出生届、新生児訪問、転入手続等の際にもれなく行い、対象と思われる方には具体的な申請方法や申請時期を個別案内している。
今後の取り組み	引き続き制度周知を充実し、家庭での子育てを希望される方への経済的支援として支援を行っていく。
	引き続き制度周知を図り、家庭での子育てを希望される方への経済的支援として事業を行っていく。
	引き続き制度周知を図り、家庭での子育てを希望される方への経済的支援として事業を行っていく。

主管課 評 価
B

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
KG I 28	こども園待機児童の解消
指標の説明	こども園待機児童の解消
指標の考え方	保護者の仕事と子育ての両立を図るため、こども園への入園待機児童の解消の環境整備を進めます。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
こども園待機児童数	62	子育て支援課	0	0	0				0.0	60.0%

目標に対する事業進捗評価	保育士の配置が十分ではなく、育児休業から仕事復帰を希望される0歳児のケースで、保護者の希望どおりには受け入れができず、広域入所や育児休業の延長を選択されるケースがあった。
	保育士の人員不足により、0歳児、1歳児について保護者の希望に沿った受入が十分にできず、広域入所や育児休業の延長を選択される状況が継続している。
	保育士の人員不足により、低年齢児について、保護者の希望に沿った受入が十分にできず、広域入所や育児休業の延長を選択される状況が継続している。
今後の取り組み	引き続き、保育士の確保に向けた検討を行うとともに、近隣市町と連携しながら広域入所の利用も含め、できるだけ保護者の希望に沿った受け入れが可能となるよう支援を行う。
	保育士の人員拡充に向けて定期的な募集を継続するとともに、民間の人材派遣会社と協調して保育士確保に努めていく。また、近隣市町との連携による広域入所も活用しながら、保護者の保育ニーズに応えることができる体制整備を推進していく。
	保育士の人員拡充に向けて定期的な募集を継続するとともに、民間の人材派遣会社の活用を含め、人員の確保と現場の負担軽減に進めるとともに、近隣市町との連携による広域入所も活用しながら、保護者の保育ニーズに応えるよう努めていく。

主管課
評 価

B

KG I 29	地域包括ケアシステムの構築に向けた取組 (1) 認知症サポーターの養成
指標の説明	認知症サポーターの養成
指標の考え方	高齢者が安心して住み慣れた地域で、自分らしく生きがいをもって暮らし続けるためには、認知症に対する理解を深めることが必要です。認知症に関する正しい知識を持って、地域や職域で認知症の人や家族を手助けする認知症サポーターの養成を引き続き推進します。特に、認知症の人と地域で関わる人が多いことが想定される小売業・金融機関等の従業員等をはじめ、人格形成の重要な時期である小・中学生に対するサポーター養成を進めます。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
認知症サポーターの養成人数	63	福祉課	3,771	3,785	3,873				5,000	77.5%

目標に対する事業進捗評価	町内銀行やスーパーマーケット等での実施を検討していたが、コロナ禍の影響により小学校1か所（1学級）での開催となった。
	町内銀行やスーパーマーケット等での実施を検討していたが、コロナ感染状況を勘案し積極的な実施勧奨に至らず地域で1か所の開催となった。
	地域の人権の役員さんと連携して開催した地区が3地区あった。
今後の取り組み	コロナ禍までの3年間は毎年200名以上の参加実績があったが、コロナ禍によりR2年度からは参加実績が激減した状況がある。ウィズコロナ政策を掲げ講座開催を推進し当初の目標値に近づくよう啓発活動に努める。
	実施を検討していた金融機関やスーパーマーケット及び小中学校に対し声掛けをして当初の目標値に近づくよう取り組んでいく。
	認知症サポーター養成講座のテキストが改訂されたので、新しい認知症観として正しい知識の普及をしていく必要がある。以前受講された方にも含めて実施していく。

主管課
評 価

C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
---------	-----------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

KG I 29	地域包括ケアシステムの構築に向けた取組 (2) 地域課題の解決
指標の説明	地域包括ケアシステムの構築に向けた取組：地域ケア会議で抽出した地域課題が解決に至った件数
指標の考え方	介護予防や認知症施策の推進など、高齢者が安心して住み慣れた地域で、自分らしく生きがいをもって暮らし続けることができるよう、支え合いの仕組みを推進するため、地域ケア会議等で抽出した地域課題を自助・互助・共助・公助など様々な観点から検討し、解決策へつなげます。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
地域課題が解決に至った件数	63	福 祉 課	0	2	0				5	40.0%

目標に対する事業進捗評価	令和3年度は、27ケースの検討を行い、地域課題を20件抽出したが、コロナ禍を理由とした地域でのサロンの休止に関する課題が多く、再開に向けての啓発活動もできていないため、結果的に課題解決には至っていない。
	地域からの相談 (①民地の木が町道にはみ出ており、通学、雪道の走行に支障となっているため町に伐採を依頼しているがなかなか対応してもらえない。②猫の多頭飼いをされているが適切な管理ができておらず、近隣住民に迷惑をかけている。③一住民が生活をするうえで適切な環境ではないので改善が必要。)があり、県、関係課、区長、民生委員と協議を重ね、①と②については解決に向けて対応ができた。住環境についてはご本人の同意が得られず、対応ができていない。
	課題が長期にわたっているものが多く、町関係課や地域の方(区長・民生委員等)と協働しながらねばり強く対応を継続した。
今後の取り組み	サロン関係の課題が多かったが、地域の方への情報提供をしながら、担当だけでなく、関係機関(社協や生活支援体制整備協議体等)と連携し、地域課題の解決に向けて取り組むようにしたい。
	地域からの提言のあった地域課題について、地域や関係機関と一緒に協議を重ね、解決に向けて対応ができたと思う。今後も、相談や課題の提言があった際は、関係課だけでなく、地域住民等も協議の場へ参加していただき、一緒に課題解決に向けて取り組みたい。
	地域課題の解決については、取り組んでもすぐに成果を出すことは難しい場合があり、今後も継続して相談等があった際は、関係課だけでなく、地域住民等も協議の場へ参加していただき、協働して課題解決に取り組みたい。

主管課 評 価
D

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
K G I 3 0	受診率の向上
指標の説明	受診率の向上
指標の考え方	健康診査及び各種がん検診の実施体制の充実、適正受診を促進します。 また、検診後の精密検査受診勧奨を行い、異常の早期発見につなげ、町民一人一人の健康維持ができることを目指します。

① 特定健診受診率

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
特定健康診査受診率 [%]	63	健康推進課	35.2	34.9	38.1				60.0	63.5%

目標に対する事業進捗評価	受診勧奨ハガキの送付や協会けんぽとの合同作成チラシの新聞折込など、未受診者へのアプローチを行っているが、R7目標達成は難しい状況である。 (H29年度までは20%台で推移、H30年度以降は30%台と微増ではあるが向上)
	受診勧奨ハガキの送付や協会けんぽとの合同作成チラシの新聞折込など、未受診者へのアプローチを行っている。R7目標達成は難しい状況であるが、年々少しずつ上昇しており、勧奨や広報活動による効果が表れていると思われる。
	受診勧奨ハガキの送付などのほか、かかりつけ医があるが健診を受けていない「みなし健診対象者」への受診勧奨など、未受診者へのアプローチを行っている。受診率は年々少しずつ上昇しており、勧奨や広報活動による効果が表れていると思われる。
今後の取り組み	未受診者へのアプローチを引き続き進めるほか、受診しやすい環境づくりを検討していくなど、受診率達成に向けて取り組んでいく。
	未受診者へのアプローチを引き続き進めるほか、受診しやすい環境づくりを検討するなど、受診率達成に向けて取り組んでいく。
	未受診者へのアプローチを引き続き進めるほか、受診しやすい環境づくりを検討するなど、受診率達成に向けて取り組んでいく。

主管課
評 価

C

② 大腸がん検診受診率

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
大腸がん検診受診率 [%]	63	健康推進課	35.1	36.6	35.5				50.0	71.0%

目標に対する事業進捗評価	コロナ禍における受診控えの影響もあり、受診率の増加が難しい状況である。
	徐々にではあるが、新型コロナ感染症拡大前の受診者数に戻りつつある。
	計画通りに進めているが、全体受診者数が昨年比で減少。集団健診の受診者数の減少によるものと考えられる。
今後の取り組み	窓口での大腸がん検診受付のほか、次年度以降は他事業においても受付を行うなど、受診率向上に向けた様々な手法の検討を行い、取り組んでいく。
	窓口での大腸がん検診受付のほか、今年度は健康相談事業でも大腸がん検診受付を行い、受診率向上に向け取り組む。
	新型コロナ感染流行を機に受診スタイルが変更し、集団検診受診者が減少しているが、集団検診は個別健診より安価で受診しやすいため、受診しやすい取組みの周知に努力する。

主管課
評 価

C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
---------	-----------------------

③ 大腸がん検診精密受診率

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
大腸がん検診精密受診率 [%]	63	健康推進課	65.5	68.3	65.0				95.0	68.4%

目標に対する事業進捗評価	コロナ禍における受診控えの影響もあり、受診者の減少による目標達成が難しい状況である。
	徐々にではあるが、新型コロナ感染症拡大前の受診者数に戻りつつある。
	計画通りに進めているが、全体受診者数が昨年比で減少。集団健診の受診者数の減少によるものと考えられる。
今後の取り組み	精密検査未受診者へ電話等での受診勧奨を実施するなど、受診率100%に向け努力していく。
	精密検査未受診者へ電話等での受診勧奨の実施及び、検診時も精密検査を行うよう受診指導も併せて実施していきたい。
	精密検査者は毎年変化するが一定数の未受診者がいることから、未受診者への受診勧奨とともに、検診受診時に精密者の傾向を伝え、受診指導を継続する。

主管課 評 価
C

KG I 3 1	母子保健事業の推進
指標の説明	乳幼児健診・保健指導の充実
指標の考え方	乳幼児健診の実施体制及び指導体制を強化し、受診率を向上させることで、疾病の早期発見と健康増進を図るとともに児童虐待の予防や早期発見など、切れ目のない母子支援のさらなる充実を進めます。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
乳幼児健診受診率 [%]	64	子育て支援課	91.5	98.5	97.4				100.0	97.4%

目標に対する事業進捗評価	集団健診の受診率は、93.2%であり例年どおり高い受診率であった。未受診者に対して電話や訪問で受診勧奨を行っていることが高い受診率を保っていると考えられる。しかし個別健診の受診率は、89.0%であった。個別健診は未受診者の把握が遅くなり受診干渉ができないため集団に比べると受診率がさがると考えられる。
	集団健診の受診率は99.3%と高い受診率であり、未受診者に対しては、電話による受診勧奨を実施したことから、高い受診率につながった。個別健診の受診率は97.7%であり、内訳をみると3～4か月児健診に比べ9～10か月児健診で受診率が低くなる傾向にある。また、個別健診は未受診者の把握が遅くなり受診勧奨ができないため、集団健診に比べると受診率が低くなると考えられる。
	集団健診の受診率は96.8%と高い受診率であった。未受診の理由としては体調不良等で欠席となり9～10か月健診で診てもらうという方が3名、医療機関で個別で6か月健診を受けるという方が1名いた。個別健診の受診率は97.9%であり、内訳をみると3～4か月児健診に比べ9～10か月児健診で受診率が低くなる傾向にある。
今後の取り組み	新生児訪問および集団健診においての次の健診の必要性和受診可能期間を伝え、全体の受診率の向上（目標100%）を目指す。
	新生児訪問および集団健診において、次期健診の必要性和受診可能期間を伝え、全体の受診率の向上（目標100%）を目指す。
	新生児訪問および集団健診において、次期健診の必要性和受診可能期間を伝え、全体の受診率の向上（目標100%）を目指す。

主管課 評 価
B

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
KG I 3 2	運動量の増加
指標の説明	健康推進課主催の運動に関する教室、イベント参加者数（町民参加）
指標の考え方	生活習慣病を起因とする疾病による介護率及び死亡率が増加しています。そのため、生活習慣病の改善策の一つとして、継続した運動が必要です。ウォーキングを始めとした教室等を開催することで運動を始めるきっかけとし、運動の習慣化を促進します。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
町民のイベント参加者数	65	健康推進課	2,446	2,758	2,926				3,600	81.3%

目標に対する事業進捗評価	新型コロナウイルス感染拡大により、ウォーキング教室や運動教室を中止したほか、イベント開催数も例年に比べて少なく、目標数には到達しなかった。
	新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、4月は教室をほとんど中止した。1教室あたりの参加者数も増加せず、目標数に到達しなかった。
	前年に比べて参加者は増加したが、令和7年度目標の3,600人には及ばなかった。
今後の取り組み	広報活動に力を入れるほか、健診等でも運動が必要と思われる方に声をかけるなど、新たな参加者の増加を目指す。
	無料体験教室の日を中心に広報活動に力を入れるほか、健診や健康相談日でも運動が必要と思われる方に声をかけるなど、新たな参加者の増加を目指す。
	ゆりはまヘルシーくらぶ新規加入者にウォーキング教室を紹介するなど、無料体験教室の日を中心に広報活動に力を入れるほか、健診や健康相談日でも運動が必要と思われる方に声をかけるなど、新たな参加者の増加を目指す。

主管課 評 価
C

KG I 3 3	「ゆりはまヘルシーくらぶ」の参加促進
指標の説明	ゆりはまヘルシーくらぶの参加促進
指標の考え方	ウォーキングを運動の中心とし、測定機器を活用して健康状態を把握する「ゆりはまヘルシーくらぶ」事業を普及させ、自発的に健康増進や健康管理に取り組む人を増やします。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
ゆりはまヘルシーくらぶ加入者数	65	健康推進課	571	734	1107				1,290	85.8%

目標に対する事業進捗評価	各種広報活動、参加者による勧誘などを通じ、年次目標に沿った参加拡大が図れている。
	各種広報活動、参加者による勧誘などを通じ参加拡大を図ったが、令和4年度の目標数770人には僅かに及ばなかった。
	各種広報活動、参加者による勧誘などを通じ、参加拡大を図った。また、企業による事業参加もあり年次目標（990人）を達成することができた。
今後の取り組み	引き続き効果的な広報活動に注力する。また、新規参加者の獲得のみならず、既参加者が継続的に健康活動を維持できるよう、事業の魅力向上に努める。
	引き続き効果的な広報活動に注力する。また、新規参加者の獲得のみならず、既参加者が継続的に健康活動を維持できるよう、事業の魅力向上に努める。
	引き続き効果的な広報活動に注力する。また、新規参加者の獲得のみならず、既参加者が継続的に健康活動を維持できるよう、事業の魅力向上に努める。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	4. 共に支え合う 町民が主役のまちづくり
K G I 3 4	健康情報伝達ボランティアの養成
指標の説明	健康情報伝達ボランティアの養成
指標の考え方	ゆりはまヘルシーくらぶ参加者の中から、家族や友人など身近な人へ“ロコミ”で健康情報を伝達するボランティア（健幸アンバサダー*）を養成し、地域におけるヘルスリテラシー*の向上を目指します。

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
健幸アンバサダーの人数	66	健康推進課	0	44	39				100	83.0%

目標に対する事業進捗評価	ボランティアが担う役割のほか、養成に必要な工程や養成後の活用などの整理ができず、養成講座の開催までには至らなかった。
	養成講座を開催し46人が受講。うち同意のあった44人に認定証を交付した。
	養成講座を開催し39人が受講。うち同意のあった39人に認定証を交付した。
今後の取り組み	ボランティアが担う役割等を再整理し、養成に向けて取り組みを進める。
	ボランティアが担う役割等を明確化し、引き続き養成に向けて取り組みを進める。
	ボランティアが担う役割等を明確化し、引き続き養成に向けて取り組みを進める。

主管課 評 価
C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	5. 志をもって 共に学び 明日を拓く ひとづくり
---------	---------------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

K G I 3 5	地域とともにある学校づくりの推進
指標の説明	地域とともにある学校づくりの推進
指標の考え方	学校の教育目標の実現に向け、学校内外の人的・物的資源を効果的に活用し、目指すべき目標の達成に向け、教育活動を横断的、組織的、計画的に行う体制を整えます。学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等により、幅広い地域住民や地域の多様な団体等が参画する、町民みんなで将来を担う子どもたちを育む環境整備を推進します。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
学校教育活動に関わった地域人材等の人数〔人〕	66	教育総務課	206	248	253				250	100.0%

目標に対する事業進捗評価	前年度に比べ、学校支援ボランティア登録数が減少（△17人）した。理由としては、中学校における郷土芸能の取り組みがコロナ禍で中止となり、ボランティアとして関わっていただく予定であった方の登録がなかったことによるものである。学校地域協働活動については、各校で活発に行われている。
	前年度と比較して学校支援ボランティアの登録が42人増加した。増加の理由としては、中学校での郷土芸能が3年ぶりに実施され、指導者として多くのボランティアに関わっていただいたことによるものである。また、各小学校でも新たな登録も見られた。各学校とも登録ボランティアによる登下校の見守り、学習への参加等による積極的な地域学校協働活動が行われている。
	学校支援ボランティアの登録数は、前年度比で＋5名であった。支援ボランティア数は年々増加している。各学校において、登下校の見守りや授業への補助などが行われており、ボランティアの姿がある学校が当たり前の姿となりつつある。
今後の取り組み	学校支援ボランティア登録数の増加をめざし、町校長会や町コミュニティ・スクール推進協議会などで啓発し、各学校の運営協議会等において様々な活動の可能性を探っていく。
	各学校の地域学校協働活動推進員を中心に新たなボランティアの発掘と活用に努める。また、コミュニティ・スクールのパンフレット配布や学校支援ボランティア活動の周知を行い、学校に関わる地域人材の輪を広げ、継続して「地域とともにある学校づくり」を推進していく。
	人材の確保に取り組んでいるが高齢化も見られる。今後は、若い方の登録とすでに学校に関わってくださっているが、ボランティアへ登録されていない方の登録を進めたい。

主管課 評 価
A

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	5. 志をもって 共に学び 明日を拓く ひとづくり
KG I 36	不登校に対する対応強化
指標の説明	不登校に対する対応強化
指標の考え方	子どもたちの抱える「不安」や「悩み」を早期に把握、対応できる体制を整え、不登校の課題の早期発見や早期支援に取り組み、子どもたちが安心して学べる教育環境づくりを進めます。

① 不登校児童生徒の出現率（小学校）

指 標 名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
不登校児童生徒の出現率 （小学校）〔%〕	67	教育総務課	1.61	1.61	1.77				0.50	28.2%

目標に対する事業進捗評価	全県的に不登校の児童が増加傾向にある。不登校の原因が多様化・複雑化する中において、学校と家庭との連携が図れない事案が増えている。各学校が不登校対策を講じているが、増加傾向となっている。
	県・中部ともに不登校児童が増加傾向にあり、出現率が増加している状況の中、町内の小学校においては昨年度実績と同数であった。新規の不登校児童を生まないという各学校の取り組みの成果は見られるが、目標には大きく届いていない。
	全国的にも不登校児童が増加傾向にある。出現率としては1.6%上昇しているが、県中部地区の出現率と比較して低い状況である。目標は0.50%と設定しているが、大きく目標には届いていない状況である。
今後の取り組み	引き続き、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）を積極的に活用するとともに、外部機関との連携も強化しながら、少しでも多くの児童が学校に登校又は中部子ども支援センター等に通所できるよう努力していく。
	スクールカウンセラー（SC）によるカウンセリングやスクールソーシャルワーカー（SSW）による外部機関との連携等を継続強化するとともに、校内における教育相談の充実を図る。また、児童の変化に早期に気づき、対応できるよう教職員の専門性の向上を図るなどの対策により、新たな不登校を生まない取組を進める。
	令和6年度は鳥取県教育委員会事務局いじめ・不登校総合対策センター事業である「学校の魅力アップ事業」の「学校アドバイザー研修」を活用し、「教職員と児童生徒の信頼関係の強化」を柱として、大学教授を招聘し指導を受けることとする。

主管課 評 価
D

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	5. 志をもって 共に学び 明日を拓く ひとづくり
---------	---------------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

② 不登校児童生徒の出現率（中学校）

指 標 名〔 単 位 〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
不登校児童生徒の出現率 （中学校）〔％〕	67	教育総務課	3.60	4.98	8.18				3.68	45.0%

目標に対する事業進捗評価	R3実績ではR7目標を達成したが、全県的に不登校の生徒が増加傾向にある。不登校の原因が多様化・複雑化する中において、学校と家庭との連携が図れない事案が増えている。
	昨年度よりも出現率が増加した。県及び中部においても不登校生徒は増加傾向にある。令和3年度からの出現率と比較すると、県では+1.51ポイント、中部地区では+1.46ポイント、町では+1.38ポイントとなっている。中学校においては、3学期に新規に不登校となった生徒が増加した。
	不登校生徒の出現率は、昨年度比で60%の増加となった。県中部地区において8.49%と高い出現率となっている。不登校の原因については学校要因として、無気力、学業の不振、クラスへの不適応などが多くなっている。
今後の取り組み	引き続き、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）を積極的に活用するとともに、外部機関との連携も強化しながら、少しでも多くの生徒が学校に登校又は中部子ども支援センター等に通所できるよう努力していく。
	小学校と同様に、スクールカウンセラー（SC）によるカウンセリングやスクールソーシャルワーカー（SSW）による外部機関との連携等を継続強化するとともに、中学校に配置している教育相談員を中心に校内における教育相談の充実を図る。また、生徒の変化に早期に気づき、対応できるよう教職員の専門性の向上を図るなどの対策により、新たな不登校を生まない取組を進める。
	令和6年度は鳥取県教育委員会事務局いじめ・不登校総合対策センター事業である「学校の魅力アップ事業」の「学校アドバイザー研修」を活用し、「教職員と児童生徒の信頼関係の強化」を柱として、大学教授を招聘し指導を受けることとする。

主管課 評 価
D

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	5. 志をもって 共に学び 明日を拓く ひとづくり
KG I 37	小中学校のICT環境の整備
指標の説明	大型提示装置・実物投影機の設置（各普通教室1台、特別教室用として6台）
指標の考え方	湯梨浜町立学校ICT環境整備計画を踏まえ、学習者用及び教師用コンピュータ、大型提示装置など小中学校のICT関連機器を計画的に整備し、学習活動の充実を図ります。

①-1 大型提示装置（プロジェクターを含む）の設置（小学校）

指 標 名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
大型提示装置（プロジェクターを含む）の設置（小学校）〔%〕	68	教育総務課	68.5	79.6	90.7				100.0	90.7%

目標に対する事業進捗評価	各学校の1・2年生用に液晶ディスプレイ等を整備し、通常学級の整備率を100%にすることができた。（事業進捗率：整備台数37台/必要数54台=68.5%）
	各学校の特別学級用に液晶ディスプレイ等を2台ずつ整備し、年次的な整備を進めることができた。（事業進捗率：整備台数43台/必要数54台=79.6%）
	各学校の特別学級用に液晶ディスプレイ等を2台ずつ整備し、年次的な整備を進めることができた。（事業進捗率：整備台数49台/必要数54台=90.7%）
今後の取り組み	令和4年度からは特別教室用の液晶ディスプレイ等を年次的に整備する。また、特別支援学級の液晶ディスプレイ等についても、年次的な整備を検討していく。
	令和6年度までに特別教室用の液晶ディスプレイの整備を完了する。また、特別支援学級の液晶ディスプレイ等について、引き続き整備を検討していく。
	令和6年度までに特別教室用の液晶ディスプレイの整備を完了する。また、特別支援学級の液晶ディスプレイ等について、引き続き整備を検討していく。

主管課
評 価

B

①-2 大型提示装置（プロジェクターを含む）の設置（中学校）

指 標 名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
大型提示装置（プロジェクターを含む）の設置（中学校）〔%〕	68	教育総務課	100.0	100.0	100.0				100.0	100.0%

目標に対する事業進捗評価	通常学級及び特別教室にはプロジェクターを100%整備している。
	通常学級及び特別教室にはプロジェクターを100%整備している。（R3からの進捗なし）
	通常学級及び特別教室にはプロジェクターを100%整備している。（R3からの進捗なし）
今後の取り組み	今後、特別支援学級のプロジェクターについても、年次的な整備を検討していく。
	特別支援学級のプロジェクターについても、小学校とあわせて引き続き年次的な整備を検討していく。
	特別支援学級のプロジェクターについても、小学校とあわせて引き続き年次的な整備を検討していく。

主管課
評 価

A

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	5. 志をもって 共に学び 明日を拓く ひとづくり
---------	---------------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

②-1 実物投影機の設置（小学校）

指 標 名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
実物投影機の設置（小学校）〔%〕	68	教育総務課	68.5	79.6	90.7				100.0	90.7%

目標に対する事業進捗評価	令和3年度に各学校の1・2年生用に実物投影機を整備し、通常学級の整備率を100%にすることができた。（事業進捗率：整備台数37台/必要数54台＝68.5%）
	各学校の特別学級用に実物投影機を2台ずつ整備し、年次的な整備を進めることができた。（事業進捗率：整備台数43台/必要数54台＝79.6%）
	各学校の特別学級用に実物投影機を2台ずつ整備し、年次的な整備を進めることができた。（事業進捗率：整備台数49台/必要数54台＝90.7%）
今後の取り組み	特別教室の実物投影機を年次的に整備する。また、特別支援学級の実物投影機についても、年次的な整備を検討していく。
	令和6年度までに特別教室用の実物投影機の整備を完了する。また、特別支援学級の液晶ディスプレイ等について、引き続き整備を検討していく。
	令和6年度までに特別教室用の実物投影機の整備を完了する。また、特別支援学級の液晶ディスプレイ等について、引き続き整備を検討していく。

主管課 評 価
B

②-2 実物投影機の設置（中学校）

指 標 名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
実物投影機の設置（中学校）〔%〕	68	教育総務課	45.0						45.0	100.0%

目標に対する事業進捗評価	実物投影機については、令和2年度までに9台を整備している。令和3年度は未整備である。（事業進捗率：整備台数9台/必要数20台＝45%）
	R7目標は20台を整備することで100%としていたが、現有の9台で充足することを中学校と確認したため、45.0%へ変更する。
	—
今後の取り組み	中学校においては使用頻度が少なく、現有の9台で充足しているとのことであり、中学校と協議した結果、今後は整備を進めないこととした。
	前述および令和5年3月29日開催の湯梨浜町総合計画評価委員会の総評を踏まえ、今後は評価を行わないこととする。
	—

主管課 評 価

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

基 本 目 標	5. 志をもって 共に学び 明日を拓く ひとづくり
K G I 3 8	ふるさとキャリア教育の推進と文化財の活用

(1) ふるさとキャリア教育の推進

指標の説明	ふるさと「湯梨浜」への誇りと愛着を育む教育の充実
指標の考え方	各教科や総合的な学習の時間において、各校の創意工夫を生かしながら地域の自然や歴史、文化、暮らしなど、地域を題材として実際に「見る・聞く・触れる」ことを重視した体験活動や地域学習を進め、湯梨浜町の魅力が体感できる教育を展開し、ふるさとへの誇りと愛着を育みます。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
住んでいる地域や湯梨浜町が好きと肯定的に回答する児童生徒の割合（アンケート）〔%〕	68	教育総務課	92.0	92.9	96				92.0	104.1%

目標に対する事業進捗評価	小学校では、社会科や総合的な学習の時間等において、体験活動を取り入れながら地域の産業や歴史等を学習する中で、ふるさとへの誇りと愛着を育むことができた。中学校では、総合的な学習の時間において地域題材に直接触れ、地域の良さを再確認することができた。
	小学校においては地域学校協働活動が活発に行われ、校外行事でも多くの地域人材のもと体験活動が行われている。中学校においても、職場訪問や郷土芸能の学習などの実施により、地域のよさに触れることができた。このような活動をとおして、ふるさとへの愛着や誇りを育むことができています。
	小学校では、梨づくりや水産教室など社会科や総合的な学習の時間等において、体験活動を取り入れながら地域の産業や歴史等を学習する中で、ふるさとへの誇りと愛着を育むことができた。中学校においても職場訪問や郷土芸能の学習などの実施により、地域のよさに触れることができた。
今後の取り組み	コロナ禍においても工夫しながら体験活動や地域学習を進め、児童生徒が直接湯梨浜町の魅力や良さを体験・学習できる活動を行い、より一層ふるさとへの誇りと愛着を持てるよう努めていく。
	引き続き、小学校における体験活動では地域人材の協力をいただきながら、地域の産業や文化・歴史などを学べる機会を作っていく。中学校においても、職場訪問や職場体験、郷土芸能などをおして地域のよさに触れる学習を実施していく。
	引き続き、小学校における体験活動では地域人材の協力をいただきながら、地域の産業や文化・歴史などを学べる機会を作っていく。中学校においても、職場訪問や職場体験、郷土芸能などをおして地域のよさに触れる学習を実施し、より一層ふるさとへの誇りと愛着を持てるよう努めていく。

主管課 評 価
B

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基 本 目 標	5. 志をもって 共に学び 明日を拓く ひとづくり
---------	---------------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
中段：令和4年度終了時点の評価
下段：令和5年度終了時点の評価

(2) 学校教育と連携し、文化財を活用した学習を実施

指標の説明	学校教育と連携し、文化財を活用した学習を実施
指標の考え方	小中学校と連携し、本町の豊富な有形無形の文化財を活用した学習に取り組み、ふるさとを愛する心を育むことにより、その歴史や文化を未来に継承します。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
学校教育と連携し、文化財を活用した学習を実施〔回数〕	68	生涯学習・人権推進課	1	7	6				各小中学校で1回以上(4)	45.0%

目標に対する事業進捗評価	泊小学校で1回実施。他校はコロナにより中止となった。
	湯梨浜中学校・泊小学校・羽合小学校で各2回、東郷小学校で1回実施した。
	湯梨浜中学校・羽合小学校で各2回、東郷小学校・泊小学校で各1回実施した。
今後の取り組み	引き続き継続して実施していく。
	長瀬高浜遺跡の発掘調査実施中のため、それを含めた学習を実施していく。
	令和6年は、長瀬高浜遺跡発見50年となるので、それらを活用した学習機会を提供していく。

主管課
評 価

C

KG I 39	男女共同参画の推進
---------	-----------

(1) 職場における男女が共に活躍できる環境整備

指標の説明	鳥取県男女共同参画推進企業認定制度の推進
指標の考え方	鳥取県男女共同参画推進企業制度の推進を図り、仕事と家庭の両立に配慮しながら、男女が共に働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組む町内企業を増やします。

指 標 名 [単 位]	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
鳥取県男女共同参画推進企業 認定数	69	まちづくり企画課	19	19	20				22	90.9%

目標に対する事業進捗評価	計画どおりに進んでいる。
	計画どおりに進んでいる。
	計画どおりに進んでいる。
今後の取り組み	引き続き、鳥取県等関係団体と連携し、事業所訪問等を行い、男女共同参画への啓発を図るとともに認定企業の増加を図る。
	引き続き、鳥取県等関係団体と連携し、事業所訪問等を行い、男女共同参画への啓発を図るとともに認定企業の増加を図る。
	引き続き、鳥取県等関係団体と連携し、事業所訪問等を行い、男女共同参画への啓発を図るとともに認定企業の増加を図る。

主管課
評 価

C

第4次湯梨浜町総合計画 重点課題 進行管理及び評価

基本目標	5. 志をもって 共に学び 明日を拓く ひとつづくり
------	----------------------------

上段：令和3年度終了時点の評価
 中段：令和4年度終了時点の評価
 下段：令和5年度終了時点の評価

(2) 政策・方針への女性の意見の反映

指標の説明	政策・方針決定の場への女性の参画拡大
指標の考え方	施策決定に男女共同参画の視点を取り込み、多様な意見や新しい発想を反映させるため、審議会、委員会等への女性の参画拡大を推進します。

指標名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
地方自治法に基づく審議会・委員会などにおける女性の割合〔%〕	69	まちづくり企画課	29.1	32.7	32.0				40.0%以上	80.0%

目標に対する事業進捗評価	前年度29.7%に対し、29.1%と割合が落ちている。これについては、各種団体推薦の委員について、男性役員が多く推薦された影響である。
	前年度は29.1%であったが、各団体への働きかけの効果により、32.7%に改善。
	前年度32.7%に対し、32.0%と割合が落ちている。これについては、各種団体推薦の委員について、男性役員が多く推薦された影響である。
今後の取り組み	役場各部署及び関係団体に対し審議会・委員会における役員について、女性委員の登用を働きかけていく。
	引き続き、役場各部署及び関係団体に対し審議会・委員会における役員について、女性委員の登用を働きかけていく。
	引き続き、役場各部署及び関係団体に対し審議会・委員会における役員について、女性委員の登用を働きかけていく。

主管課 評価
C

(3) 家庭、地域における男女共同参画意識の向上

指標の説明	男女共同参画講演会の男性参加率の向上
指標の考え方	夫婦や親子、カップルなど男女が共に参加しやすい講演会を企画実施し、男性参加率を向上させることにより、男女が共に理解し合い、家庭・地域・職場・学校などあらゆる場面において性別にとらわれず、活躍する男女共同参画の意識を高めます。

指標名〔単位〕	頁	主管課	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績		R7目標	達成率
男女共同参画講演会の男性参加率〔%〕	70	まちづくり企画課	-	16	34.6				35%以上	42.9%

目標に対する事業進捗評価	令和3年度はコロナ禍により講演会を中止。
	令和4年度は16%だった。講演内容が「野の花診療所」の徳永 進さんの医療や看取りに関する内容だった。女性の参加が多かった。
	令和5年度の男性参加率は34.6%となったが、人数は1人増の37人。参加者総数が半減したことによる。
今後の取り組み	講演会は今後も引き続き実施していく。企画課との連携や町民のつどい等の他事業とのタイアップなどを通して、継続的に町民への啓発を行っていき、男女共同参画意識の向上を図る。
	講演会は、引き続き実施していく。他の事業や講演会でも男女が共に参加しやすい内容を検討し、男女共同参画の意識高揚を図っていく。
	引き続き、男女共同参画を意識づける機会として講演会を実施していく中で、参加者数の増加に繋がるテーマ・内容を検討していく。

主管課 評価
C